

JA全厚連情報



J A静岡厚生連中伊豆温泉病院 新病院開院



目 次

- 年頭所感
全国厚生農業協同組合連合会 代表理事会長 長谷川 浩敏 1
- プラネタリーヘルス（地球の健康）等について研修
第 34 回厚生連病院長セミナー・全国厚生連病院長会第 29 回通常総会 3
- 「人材確保・定着」、「2024 年度診療報酬改定」について研修
厚生連病院看護部長セミナーをWEB開催 4
- 基礎編、応用編、経営理論編を開催
厚生連経営管理職層育成研修会 7
- 新型コロナウイルス感染症対策への財政支援にかかる要望等について協議
事業企画委員会（実務者PT）を開催 9

・通信員だより

- 共に進もう地域医療～高齢化社会を地域で支えるために～「第62回農村における健康を考える集い」
(JA秋田厚生連) 11
- 「地域医療連携の会」並びに「がん診療連携拠点病院研修会」を開催しました！
(秋田厚生医療センター) 12
- アウトオブキツザニアinしらかわ 2023 に出展 医師、助産師の仕事をこども達が体験
(白河厚生総合病院・白河厚生総合病院附属高等看護学院) 13
- 協定交わし医療の確保 (JA茨城県厚生連) 14
- 水戸協同病院で「有機野菜マルシェ」を開催 (水戸協同病院) 15
- 世界糖尿病デーin 相模原協同病院 2023 を開催しました (相模原協同病院) 17
- 災害訓練を実施しました (伊勢原協同病院) 18
- 臨床工学技士研究会を開催 (JA長野厚生連) 19
- 「電動ICUベッド」受贈 (JA富山厚生連) 20
- 中伊豆温泉病院新病院 開院 (JA静岡厚生連中伊豆温泉病院) 21
- 静岡県JA介護保険事業研究集会開催 (JA静岡厚生連) 23
- はままつ多文化共生生活表彰 (JA静岡厚生連遠州病院) 24
- 第75回保健文化賞を受賞して (尾道総合病院) 25



©よい食プロジェクト

全国厚生農業協同組合連合会
〒100-6827 東京都千代田区大手町 1-3-1 JAビル
TEL(03)3212-8000 FAX(03)3212-8008
E-Mail: jigyounei@ja-zenkouren.or.jp
(事業運営支援グループ)
<http://www.ja-zenkouren.or.jp>
編集責任者 中村 純誠



年頭所感
2024

年頭所感



全国厚生農業協同組合連合会

代表理事会長 長谷川 浩敏

令和6年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

日頃よりJA厚生事業にご理解とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

昨年の春から、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが季節性インフルエンザと同じ「5類」に変更されました。各JA厚生連の医療関係者、健診施設、高齢者施設の従事者の皆様、その他多くの関係者の皆様のこれまでの献身的なご尽力に、深く感謝を申し上げます。また、新型コロナウイルス感染症対策にご理解、ご協力をいただいたJA組合員や役職員の皆様に対しまして、改めて感謝を申し上げます。

JA厚生事業にとって令和6年度は、6年に一度の、診療報酬、介護報酬及び障害福祉サービス等報酬の同時改定であり、重要な節目の年となります。国においては、団塊の世代が全て75歳以上の高齢者となる2025年だけでなく、ポスト2025年のあるべき医療・介護の提供体制を見据え、医療と介護の役割分担と切れ目のない連携を着実に進め、医療・介護の複合ニーズを有する者が、必要なときに「治し、支える」医療や個別ニーズに寄り添った介護を地域で完結して受けられるようにする社会を目指すことが重要であるとしております。

さて、現在の食材料費をはじめとする物価高騰の状況、賃上げの状況などといった経済社会情勢は、医療分野における医療サービスの提供や人材確保にも大きな影響を与えております。診療報酬並びに介護報酬は公定価格であることから、医療機関や介護施設等では、物価高騰による費用増加分を価格に転嫁することができず、経営の圧迫に直結することとなります。

厚生事業にとっては、診療報酬・介護報酬改定や医師の働き方改革等、変化の年となりますが、地域住民が安心して保健・医療・高齢者福祉サービスを受けられ、健康に暮らすことができるよう、JA厚生連役職員一丸となって取り組んでまいります。

また、JAグループでは、本年10月に開催予定であるJA全国大会が、節目である第30回を迎えます。前回大会以降、JAや農業、社会を取り巻く環境が大きく変化している中、全国のJA組合員とJAグループ各組織が共通の意志を結集し、課題解決が図られるよう取り組んでまいります。JA厚生事業では、前回大会決議の実践状況を踏まえた取組み（「持続可能な地域・組織・事業基盤の確立」）の継続・見直しとして、JAグループ群馬で取り組まれている健康経営について検討を行っております。健康経営とは、事業体が持続的に成長するための経営戦略のひとつであり、従業員の健康づくりをサポートしつつ業務効率を改善し、事業体の生産性を高めていくという経営手法とされ、「経営戦略として従業員の健康増進」に取り組むものであります。農業を担う農業法人やJA等が取り組むことにより、その効果が発信できるものと考えております。

本年も、皆様方から、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。

プラネタリーヘルス（地球の健康）等について研修 第34回厚生連病院長セミナー・全国厚生連病院長会第29回通常総会

本会は令和5年11月25日、第34回厚生連病院長セミナーを開催し、16厚生連から41名の病院長等が参加した。

当日は、「プラネタリーヘルス（地球の健康）という新しい視座」（中村安秀・公益社団法人日本WHO協会理事長）、「MBA的戦略的医療マネジメント」（角田圭雄・一般社団法人日本医療戦略研究センター代表理事）の2講演が行なわれた。

中村氏は講演で、プラネタリーヘルス（Planetary Health：地球の健康）について、「地球（惑星）の健康は、単なる環境問題ではなく、人間の暮らしは自然の恵みのうえに成り立っていることから、人類の健康とウェルビーイングのあらゆる側面が、地球環境の変化の影響を受けている。」と説明された。



中村氏講演の様子

角田氏講演の様子

角田氏は医師として働きながら「MBA in Healthcare Management（医療経営学修士）を取得した経験を踏まえて、病院の経営（非営利組織の運営）について講演された。講演の中では、臨床医学と経営学の比較として、「患者を治すこと」と「組織を治すこと」のアプローチの仕方について、実体験を紹介しながら話された。

参加者からは、「新しい視座を得られた。」、「グローバルなテーマだが、同時に自分達の地域医療の実践にも有用な内容と感じた。」、「病院運営に経営学的な考え方が必要だとわかりました。」、「経営戦略の必要性について参考になった」等の感想が寄せられた。

セミナー終了後は、全国厚生連病院長会（会長：渡辺仁・佐久総合病院統括院長）第29回通常総会が行われた。

「人材確保・定着」、「2024年度診療報酬改定」 「次世代の看護管理者育成」について研修

厚生連病院看護部長セミナーをWEB開催

本会は令和5年11月7日および14日、28日に、厚生連病院看護部長セミナーをWEBで開催し、21 厚生連から計312名が参加した。

本セミナーは、病院経営全般にかかる情報の取得、厚生連病院看護部長間の連携の促進を図ることを目的に開催しており、今年度は、「人材確保・定着」、「2024年度診療報酬改定」及び「次世代の看護管理者育成」をテーマに、11月7日、14日、28日の3日間で開催した。

1日目は、「2024年度診療報酬改定について」と題して、長面川さより氏（株式会社ウォームハーツ代表取締役）が講演を行った。

講演の中で長谷川氏は、国の動向として診療報酬改定や総合確保方針、医療計画等を踏まえた今後のスケジュールを説明するとともに、今後の医療需要を見据えた体制として、外来機能をどのようにするか等について、事例を踏まえてお話しいただいた。

Contents	
1. 診療報酬改定の動向	・・・P3
診療報酬改定時期を2か月後ろ倒した場合のスケジュール	・・・P4
医療DXについて	・・・P7
令和6年度診療報酬改定に向けた基本認識、基本的視点、具体的方向性について	・・・P16
各審議会などの進捗状況	・・・P21
2. 具体的事項	・・・P31
①働き方改革の推進について	・・・P32
地域医療体制確保加算	・・・P38
急性期看護補助体制加算等の看護補助者	・・・P44
看護補助体制充実加算	・・・P46
看護職員処遇体制加算	・・・P49
②入院医療について	・・・P58
急性期入院医療	・・・P59
早期離床・リハビリテーション加算	・・・P73
早期栄養介入加算	・・・P77
③回復期入院医療	・・・P77
地域包括ケア病棟入院料	・・・P78
回復期リハビリテーション病棟入院料	・・・P88
④慢性期入院医療	・・・P93
療養病棟入院基本料	・・・P98
認知症ケア加算	・・・P98
入退院支援加算	・・・P105
⑤外来医療について	・・・P112
紹介受診重点医療機関について	・・・P113
連携強化診療情報提供料	・・・P122
がんの医療提供	・・・P128
外来における化学療法について	・・・P132
外来腫瘍化学療法等	・・・P136
療養・就労両立支援指導料	・・・P144
⑥人生の最終段階における医療・ケアの充実	・・・P149
人生の最終段階における医療・介護	・・・P150
訪問看護等の提供について	・・・P150

研修の様子

参加者からは、「来年度の改定に向けて、データをとること、組織としての取り組みを明確にしていきたい。」「外来機能をどのようにするか、病院内で検討する必要性を感じた」等の感想が寄せられた。

2日目は、「人が集まる・人が辞めない職場をつくる 看護管理者のためのスタッフ採用・人材発掘・定着戦略～プラチナナースの活用～」と題して、高須 久美子氏（社会医療法人美杉会グループ理事・特任総看護部長兼教育部長）が講演を行った。

講演の中で高須氏は、「病院（看護部）の採用戦略をどう関与するか」、「人が辞めない職場（働き続けたい職場）にするためにどうしたか」について、ご自身の経験を踏まえた事例をお話しいただいた。

はじめに

- コロナ禍において病院の経営状況の悪化は深刻化
- 長期化によって医療従事者の疲弊はピークを迎えている
- 2023年5月第5類感染症となった新型コロナウイルス感染対応の充実を余儀なくされている
- この苦境の中「看護の力」でどう、経営参画していくかということが看護管理者にとって大きな課題となる
- 経営改善の1つが看護職員の人材確保・定着、そして育成
- こんな時こそ、**看護の力ががちり！**



研修の様子

講演後は、「人材確保・定着（プラチナナースの活用も含めて）」をテーマにグループディスカッションを行った。

参加者からは、「看護の力でどう経営参画していくのかという課題のため、戦略をもって取り組んでいくヒントが得られた。」「温かい職場づくりが人の定着に繋がると感じました。辞めさせないというより、続けてもらうという発想の転換が印象に残りました。」等の感想が寄せられた。

3日目は、「看護管理者の育成」と題して、坂本すが氏（東京医療保健大学副学長）が講演を行った。

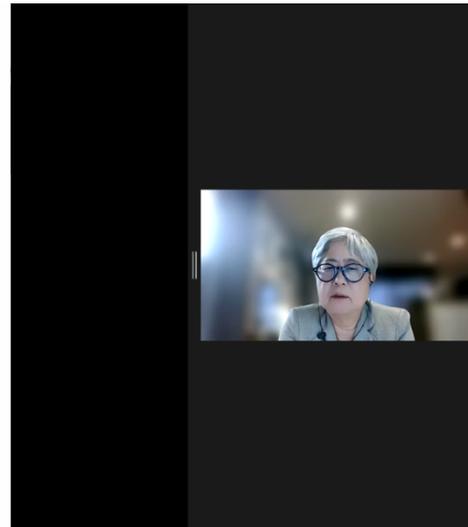
講演の中で坂本氏は、「看護管理者育成制度と現状（認定看護管理者の現状）」や「看護管理者をどのように育成するか」について、日本の看護管理者育成制度の経過と海外の比較や、看護管理者としてご自身の経験した事例を踏まえてお話しいただいた。

そうはいつでも、 看護管理者の育成は急務である

- なぜ？
 - 人口減少の中で離職防止＋看護師確保は必須
 - 働き方改革の中でのタスクシフト＋生産性向上
 - 地域連携に向けた入・退院調整
 - 医療安全管理＝セーフティマネジメント
 - 成果の可視化→データマネジメント
 - 働く人の多様化→ダイバーシティマネジメント
- だれがマネジメントする？
 - これらに対応できる看護管理者を育成しなくてはならない

6

研修の様子



参加者からは、「これからの看護管理者の育成について知見が広がった。」「看護管理者育成のために、看護部長としてどう向き合うか、具体的でわかりやすく教えていただいた。」等の感想が寄せられた。

基礎編、経営理論編を開催

厚生連経営管理職層育成研修会

本会は厚生連経営管理職層育成研修会の「基礎編（第3クール）」（12月21～22日）、「経営理論編（3日目）」（11月24日）をWEBで開催した。基礎編に18厚生連・56名参加、経営理論編に10厚生連・21名が参加した。

厚生連経営管理職層育成研修会は、基礎編（全3クール）と応用編（全2クール）に階層化して開催しており、応用編では、基礎編の受講を終えた方が財務会計と管理会計の応用レベルの知識の習得を図る。

基礎編の第3クールでは、財務分析の知識について、以下の内容で行われた。

【厚生連経営管理職層育成研修会（基礎編）】

	研修内容	
第3クール （12月21～22日）	経営戦略の知識 ・財務会計と管理会計の違い ・CVP分析の基礎	・設備投資意思決定の基礎 ・事業計画策定の基礎

管理会計の目的を理解しましょう

管理会計＝意思決定のために有用な情報を提供する

- 全ての管理者が業務の計画をたて、コントロールし、様々な意思決定を行う必要があります。
- 管理会計の目的は、計画設定、コントロール及び意思決定に必要な情報を提供することです。



研修の様子

参加者からは、「設備投資意思決定の基礎について、理解できていない部分が多かったことが分かった。」「基礎的な考えが出来たと考えるが、実際の病院帳票を読み取るには、分からないことが多くある。今後の知識のつけ方を考えたい。」等の感想が寄せられた。

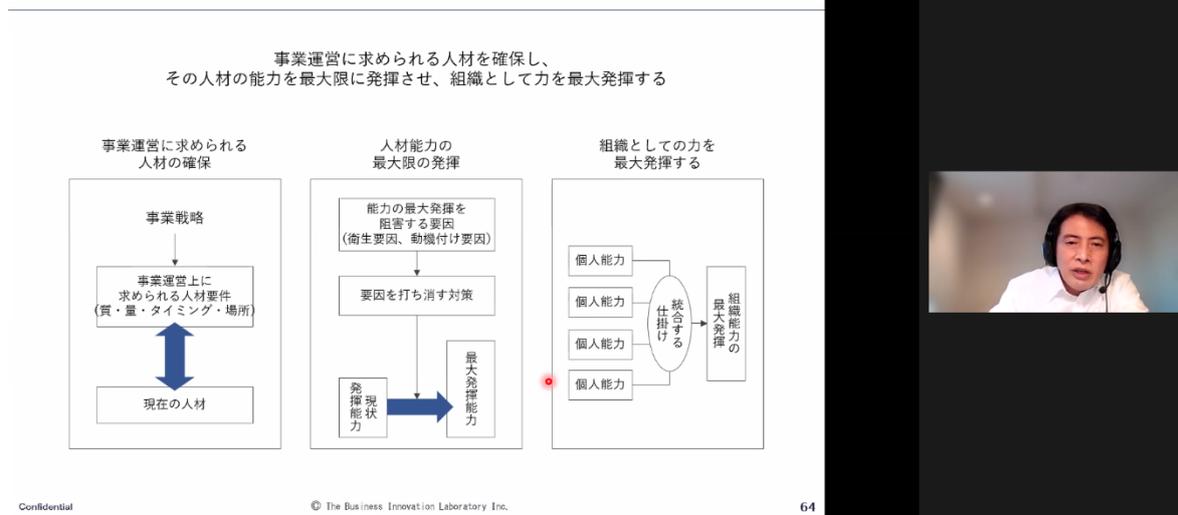
経営理論編（年3日）については、病院・健診センター等施設単位の経営に限らず、厚生連全体を1組織としてマネジメントする職員を育成するため、令和3年度より開催している。

3日目は、戦略・経営計画を実行するための組織づくりについて、以下の内容で行われた。

【厚生連経営管理職層育成研修会（経営理論編）】

	研修内容
3日目 (11月24日)	戦略・経営計画を実行するための組織づくり 【講義】 ・戦略実行のための組織とは ・組織を動かすための前提 【ワーク】 ・組織簡易診断、課題設定 ・研修全体の振り返り

人材マネジメントの目的



研修の様子

参加者からは、「組織をマネジメントしていくための考え方を学ぶよい機会となった。少し上の立場の層向けの講義ではあったが、将来に向けた準備と捉え学べた。」「経営管理職として考えなければならない事が理解できた。」「事業運営におけるリーダーシップ、マネジメントが分かりやすく、確認することが出来ました。」等の感想が寄せられた。

新型コロナウイルス感染症対策への 財政支援にかかる要望等について協議

事業企画委員会（実務者PT）を開催

本会は令和5年11月30日に、東京・大手町のJAビルにおいて、事業企画委員会の医療事業部門実務者PTを開催した。

会議では（1）JA全厚連令和6年度事業計画（素案）、（2）厚生事業に係る要請活動、（3）会員厚生連間における情報の共有、（4）厚生連からの照会事項の記録の共有、（5）医療用物資の国備蓄品の売却事業一等について協議した。

（1）に関して、新たな取組みとして、国（経済産業省）が推進している「健康経営（※）」が中小企業も対象になったことを踏まえ、JA職員・連合会職員の健康に貢献するため、健康経営について情報収集を行うこと等を説明した。委員からは、現時点での取組みや関連団体との関係等について意見が出された。

※「健康経営とは」

「健康経営」とは、従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践することです。企業理念に基づき、従業員等への健康投資を行うことは、従業員の活力向上や生産性の向上等の組織の活性化をもたらし、結果的に業績向上や株価向上につながると期待されます。健康経営は、日本再興戦略、未来投資戦略に位置づけられた「国民の健康寿命の延伸」に関する取り組みの一つです。（経済産業省HP（抜粋））

（2）に関して、自由民主党の議員連盟「農民の健康を創る会」の総会における団体要望及び他の医療団体と連携した要請活動の状況について説明した。

○各団体における要請事項

団体名	要請内容
農民の健康を創る会	・円安・原油価格の高騰等による物価高騰への対応 ・有償病床に係る法人税非課税措置要件の見直し
日本病院会	・入院基本料の引き上げに関するお願い（嘆願書）
地域医療を守る病院協議会	・地域の医療機関における物価高騰への支援に関する要望

（5）に関して、前回報告時からの状況について説明し、厚生連の利用に向けた意見交換を行った。

令和5年度事業企画委員会 名簿（実務者PT部門）

氏名	厚生連名	役職
小川 秀幸	北海道	代表理事専務
高久 忠	福島県	代表理事理事長
高木 茂	富山県	代表理事理事長
宇野 修二	愛知県	代表理事理事長
庄山 隆裕	三重県	代表理事理事長
豊田 達之	広島県	代表理事理事長

【参考】

令和5年度事業企画委員会 名簿（医師PT部門）

氏名	厚生連名	役職
小野地 章一	秋田県	代表理事理事長
高野 靖悟	神奈川県	代表理事理事長
洞 和彦	長野県	代表理事理事長
塚田 芳久	新潟県	代表理事理事長
田宮 隆	香川県	代表理事理事長

令和5年度事業企画委員会 名簿（保健事業部門）

氏名	厚生連名	役職
飯沼 全司	山梨県	代表理事専務
上月 裕司	兵庫県	代表理事常務
三宅 隆	愛媛県	代表理事理事長
西野 良二	熊本県	代表理事常務

通信員だより

共に進もう地域医療 ～高齢化社会を地域で支えるために～ 「第62回農村における健康を考える集い」

(JA秋田厚生連)

令和5年11月3日、潟上市の「トレイクかたがみ」において「第62回農村における健康を考える集い」を開催し、約130名に会場いただき、盛会のうちに終えることができました。

この集いは、秋田県種苗交換会行事の一環として秋田県農協中央会、秋田県厚生連（小野地章一・代表理事理事長）、一般財団法人秋田県農村医学会の共催で昭和35年から開催しており、今年も、湖東厚生病院（波多野善明病院長）が担当病院となり、「共に進もう地域医療～高齢化社会を地域で支えるために～」をテーマに実施しました。

第一部では、湖東厚生病院の4名の専門医等が『地域医療への取り組み』について講演を行いました。内科の漆畑宗介医師は「最後まで自分らしく暮らすために～人生会議について～」、内科の伊藤善昭医師は「オンライン診療の実際～介護施設との連携～」、添野俊彦言語聴覚士は「食べる喜びを～介助者とできる誤嚥性肺炎の予防～」、消化器内科の石井元医師は「消化器がんから家族を守るために」、というテーマで講演し、地域医療が果たす役割の重要性を知る良い機会になりました。

第二部の特別講演では、秋田大学大学院医学系研究科脳神経外科学講座の清水宏明教授をお迎えし、「よくある脳や頭の症状：こんなときどうします？」についてご講演いただきました。脳卒中や認知症について、また頭が痛いときのチェックポイント・対処法を症例を挙げながら分かりやすくご説明いただき、医療関係者や地域住民の方々が熱心に聴講していました。

ご参加いただいた皆様に心より感謝を申し上げますとともに、次回は鹿角市での開催を予定しております。



「第62回農村における健康を考える集い」開催の様子

(淡路明美通信員)

「地域医療連携の会」並びに 「がん診療連携拠点病院研修会」を開催しました！

(JA秋田厚生連・秋田厚生医療センター)

令和5年10月28日、秋田厚生医療センター（柴田聡病院長）の大会議室にて「地域医療連携の会」並びに「がん診療連携拠点病院研修会」を開催しました。土崎医談会、男鹿潟上南秋医師会の皆様より共催を頂き、地域の医療機関15施設から20名、当院から20名が参加し、盛況に開催する事が出来ました。

内容は、当院整形外科 小林孝副院長による「脊椎手術の進歩と当院の取り組み」、当院糖尿病・代謝内科 下斗米孝之診療部長による「糖尿病医のひとりごと」、秋田大学大学院医学系研究科消化器外科学講座 有田淳一教授による特別講演「膵癌と大腸癌肝転移の外科治療の最前線」の3演題が発表され、会場の先生方からの質問もあり、活発な意見交換が行なわれました。

新型コロナウイルスの影響で開催出来ない期間もありましたが、地域の医療機関の皆様と顔の見える関係を築きたいとの思いから始まったこの会も、今回で20回を迎える事が出来ました。これも医師会の皆様のご支援の賜物と感謝しております。

この会は、地域の各診療科の先生方と直接お会いして、病院に対するご意見や要望、地域の実情を知る貴重な催しであります。今後、高齢化が進む中で、病診・病病連携、医療・介護連携は益々重要になりますので、今後も顔の見える関係を築きながら、医師会の皆様とさらに連携が深められる会として、永続していきたいと思っております。



会場の様子

(淡路明美通信員)

アウトオブキッズニアinしらかわ 2023 に出展 医師、助産師の仕事をこども達が体験

(JA福島厚生連・白河厚生総合病院・白河厚生総合病院附属高等看護学院)

JA福島厚生連白河厚生総合病院(大木進司病院長)と白河厚生総合病院附属高等看護学院は、同実習室にて令和5年11月25日、26日、アウトオブキッズニアinしらかわ2023へ「医師の仕事」「助産師の仕事」として出展しました。このイベントは、福島県主催で「こども達に楽しく仕事体験をしてもらうなかで、未来の地域産業を担う人材になって欲しい」という目的で開催されました。「医師の仕事」は男女合計29名、「助産師の仕事」は男女合計37名の小学1年生から中学3年生が参加しました。



人工呼吸体験している参加者

「医師の仕事」では白河厚生総合病院の研修医の指導により、診察、投薬、検査や、人形相手に実際に心肺蘇生や人工呼吸を行うなど、実際の診療現場さながらの体験をしました。「先生が詳しく教えてくれたので、体のことがよくわかった」「医師になりたいという気持ちをもっと強くなったので、勉強をがんばりたい」などの感想が聞かれました。



新生児の沐浴体験をしている参加者

「助産師の仕事」では参加者はナース服に着替え、自己紹介をして仕事体験が始まりました。まず手洗いをし、新生児(人形)の体重測定、心音聴取、体温測定を行い、その後沐浴を行いました。未来の助産師さんたちは、真剣に先輩助産師さん達の話聞き、新生児のお世話をしました。「赤ちゃんの心音が自分の心音よりも早くてびっくりした」「赤ちゃんが重くてお世話が大変だった」「みんなが大切ないのちだということがわかった」などの感想が聞かれました。

(佐藤剛通信員)

ました。

協定交わし医療の確保

(JA茨城県厚生連)

JA茨城県厚生連は令和5年12月4日、行方市と「地域医療等に係る連携協力に関する協定」を締結し、安藤昌義・JAなめがたしおさい代表理事組合長の立ち会いのもと、長谷川博史・代表理事理事長と鈴木周也・行方市市長が協定書に署名をしました。

協定内容は、土浦協同病院なめがた地域医療センター（清水純一病院長）の外来機能維持のための協議・検討に関する事、総合病院土浦協同病院での行方市民の救急受入体制の充実に関する事、同センター施設の管理運営および利活用に関する事など6項目になります。

締結式で、長谷川理事長は「『地域医療構想』及び『医師の働き方改革』という2つの大きな課題を抱え厳しい状況下に置かれているが、同市との連携を強化し地域に根差した持続可能な医療提供体制を検討していきたい」と話しました。

鈴木市長は「今後もJA茨城県厚生連と良好な関係を保ちながら、医療体制を確保していくため様々な協議を行い、市民の安全安心につなげていきたい」と語りました。



締結式で協定書に署名を交わした様子

写真左から、清水純一 土浦協同病院 なめがた地域医療センター病院長、鈴木周也 行方市長、長谷川博史 JA茨城県厚生連代表理事理事長、安藤昌義 JAなめがたしおさい代表理事組合長

(酒井一彦通信員)

水戸協同病院で「有機野菜マルシェ」を開催

(JA茨城県厚生連・水戸協同病院)

令和5年12月22日、総合病院水戸協同病院（渡辺重行病院長）の玄関前で、「有機野菜マルシェ」（販売会）が行われました。

今回はJA茨城県中央会が主催し、JAやさと、JA水戸、JAなめがたしおさいの協力を得て開催されました。

有機春菊、同人参、同大根の他、れんこん、水菜等の農産物や、納豆、ほしいも等の特産品も販売され、病院を訪れた方々から注目が集まり大盛況となりました。

利用者からは「こうしたイベントはたくさん開催してほしい」と喜びの声が聞かれました。

JAやさと 高橋大販売拡大課長は、「今回は年末年始の料理に欠かせない有機野菜等を中心に揃えたが、次回からは品目を拡大して、訪れた方々にもっと喜んでほしい」と話しました。



大盛況となったマルシェの様子



新鮮で美味しい、旬の食材が勢ぞろい!

有機野菜マルシェ

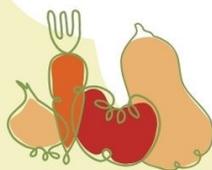
12月22日 金

時間 : 10:00-12:00

場所 : 水戸協同病院駐車場

※小雨決行/荒天中止

売り切れ御免!



会場までの経路はこちら▷



「有機野菜マルシェ」チラシ

(酒井一彦通信員)

世界糖尿病デーin相模原協同病院 2023 を 開催しました

(JA神奈川県厚生連・相模原協同病院)

令和5年11月11日に相模原協同病院（渋谷明隆病院長）は、糖尿病ケアチームによる「世界糖尿病デーin相模原協同病院 2023」を開催しました。毎年11月14日は世界糖尿病デーとされており、“Unite for Diabetes”（糖尿病との闘いのため団結せよ）というキャッチフレーズとともに、世界中で糖尿病予防に向けたイベントが行われています。

イベントでは身長・体重測定、身体機能測定（握力、2ステップテスト）、フットチェック、血糖測定や看護師、薬剤師、管理栄養士による糖尿病療養相談が行われました。また、今年から療養相談に認知症看護認定看護師による「糖尿病と認知症の関係」が加わりさらに充実した内容になりました。メインイベントは、糖尿病・代謝・内分泌内科部長の山口医師による講演と、糖尿病にかかるクイズや家でもできる簡単な体操、歩行運動などを行いました。参加者の方々の真剣に取り組む姿に関心の高さが伺えました。

このようなイベントを通じて、自分や家族、大切な人とともに糖尿病について考え、生活習慣病を見直すきっかけになればと思います。



家でもできる体操



糖尿病ケアチーム

(生沼貴彦通信員)

災害訓練を実施しました

(JA神奈川県厚生連・伊勢原協同病院)

令和5年11月18日に伊勢原協同病院(鎌田修博病院長)は、災害訓練を実施しました。多職種から構成された防災委員会災害医療部会メンバーを中心に、約100人の職員が参加しました。

震度6強の地震を想定し、災害対策本部の立ち上げと運用をはじめ、患者さんの重症度や緊急性に基づいて治療の優先順位を決定する「トリアージ」、患者さんの情報を素早く正確に記録する「クロノロジー」に重きを置いた訓練になりました。さまざまな状態の患者さんが次々と運ばれてくる状況下で、限られた医療資源をどう有効活用するか、各々が考えながら訓練を行いました。



トリアージ訓練の様子

(生沼貴彦通信員)

臨床工学技士研究会を開催

(JA長野厚生連)

JA長野厚生連（洞和彦・代表理事理事長）は令和5年11月26日、第12回長野県厚生連臨床工学技士研究会をオンラインで開催し、県内の厚生連病院の臨床工学技士など59名が参加しました。この研究会は臨床工学技士の技術向上、病院間の臨床工学技士の業務に関する情報交換と情報共有を目的としており、コロナ禍のため4年ぶりの開催となりました。今回は各病院からの演題発表と全参加者による座談会を行いました。

特に、各病院からの演題発表は、4年ぶりの開催ということもあり、活発なものとなりました。例えば、富士見高原医療福祉センターの「ME機器動画マニュアル作成の取り組み」という演題では、発表に動画資料を多用しており、参加者の注目を集めました。研究会後のアンケートでは、「様々な発表が聞けて興味深い発表も何点かあった」、「他院のコロナ対応など、大変参考になる内容だった」などの感想がありました。



演題発表の様子

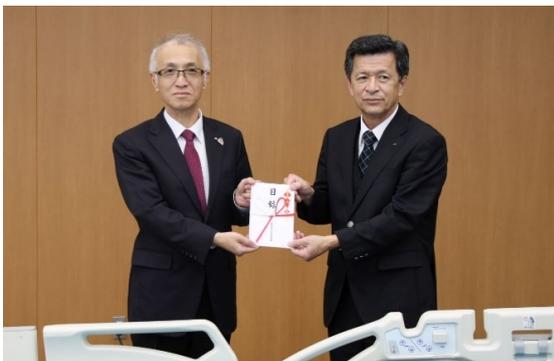
(山岸愛通信員)

「電動ICUベッド」受贈

(JA富山厚生連)

全国共済農業協同組合連合会（JA共済連）富山県本部より地域貢献活動の一環として、組合員・地域住民が健康で安心して暮らせる豊かな地域づくりを目的に厚生連高岡病院（寺田光宏病院長）に電動ICUベッドを寄贈していただきました。令和5年12月22日、JA富山厚生連（高木茂・代表理事理事長）本所において、JA共済連の村井県本部長より高木理事長に目録が贈呈され、集中治療室や救命救急病棟で使用していきます。

電動ICUベッドには体重計が装着されており、適時に体重測定ができ、薬剤投与量の調整がすみやかにこなえることや離床センサーといった見守り機能が搭載されています。合併症予防や身体機能回復のために重症患者が寝ている姿勢から座った状態に近い姿勢をとれるようベッド全体が傾き足先を下げながら背上げをすることができます。またベッドの高さ調整幅が大きいので、患者さんが床に足底をつけベッドサイトに座る姿勢がとれる低い床高にすることや、高くすることで医師・看護師の治療や処置時の負担軽減につながります。



目録贈呈の様子(左)村井県本部長、(右)高木代表理事理事長



贈呈された電動ICUベッド

(中西康志通信員)

中伊豆温泉病院新病院 開院

(JA静岡厚生連・JA静岡厚生連中伊豆温泉病院)

リハビリテーション中伊豆温泉病院は名称を「JA静岡厚生連 中伊豆温泉病院」と名称を改め伊豆市下白岩に新築移転し、令和5年12月1日に開院しました。

開院に先立ち、11月10日、中伊豆温泉病院新病院竣工式・祝賀会を執り行いました。

竣工式は新病院にて関係者約80名が出席し、神事、テープカットを行い、その後の内覧会で出席者を、外来診察室や手術室、大浴場、健康管理棟等の各箇所に案内しました。

祝賀会は場所をラフォーレ修善寺に移し、来賓、関係者約120名が出席しました。祝賀会では、新病院建設に尽力していただいた企業の皆様に鈴木会長より感謝状を手渡しました。

竣工式、祝賀会ともに多くの来賓、関係者に出席いただき盛大に行われました。

今後、静岡県東部地区の健康管理とリハビリテーションの拠点病院として地域に貢献していきます。



中伊豆温泉病院新病院 開院



竣工式の様子

(望月俊宏通信員)

静岡県JA介護保険事業研究集会開催

(JA静岡厚生連)

JA静岡厚生連（荒田庄治・代表理事理事長）では、令和5年11月26日静岡県コンベンションアーツセンターグランシップにて、「令和5年度静岡県JA介護保険事業研究集会」を開催しました。

研究集会では、人を大切にする経営学会会長の坂本光司氏を招き、「日本でいちばん大切にしたい会社」と題した講演を行いました。講演では、日本各地にある様々な会社や介護系の施設のエピソードを交え紹介し、人を大切にする会社についての講演が行われました。

また、JA高齢者福祉ネットワーク スーパーバイザーの今瀬俊彦氏による介護情勢について、各介護事業所による事例発表が行われました。

県内各JAの介護保険事業所の職員約100名が参加しました。



開催の様子

(望月俊宏通信員)

はままつ多文化共生生活表彰

(JA静岡厚生連・JA静岡厚生連遠州病院)

JA静岡厚生連遠州病院(大石強病院長)に勤める石川マリナさんが「第6回はままつ多文化共生生活表彰」を受賞しました。

この表彰は浜松市が多文化共生社会づくりを継続的に推進するため、優れた多文化共生活動を行う市民や団体を表彰するもので、石川マリナさんは、「浜松におけるポルトガル語医療通訳者の先駆的存在として30年以上に渡って医療機関でポルトガル語通訳を続けている。」「ブラジル人が適切な治療や医療サービスを受けるために、長年に渡り尽力してきた。」ことが認められ表彰されました。



「第6回はままつ多文化共生生活表彰」を受賞した石川マリナさん

(望月俊宏通信員)

第75回保健文化賞を受賞して

(JA広島厚生連・尾道総合病院)

第75回保健文化賞の受賞式について、JA尾道総合病院（田中信治病院長）の副院長花田敬士氏（消化器内科）よりご寄稿いたしました。

このほど第75回保健文化賞の受賞式が東京で開催されました。今回は国内10団体と3個人が表彰され、私は広島県尾道市医師会と協働で、膵癌の危険因子に着目し、病診連携を生かして検査介入を行う“膵癌早期診断プロジェクト（尾道方式）”を展開し、膵癌の早期診断例の増加や5年生存率の改善等に貢献したことが評価され個人での受賞となりました。

当日は厚生労働大臣表彰、NHK厚生文化事業団および朝日新聞厚生文化事業団から記念品の贈呈、第一生命から感謝状が授与され、懇親会では他の受賞者の皆様と親しく懇談し大きな刺激を頂きました。また翌日は報道のとおり、皇居にて両陛下と拝謁の機会を頂き、受賞の内容に対して労いのお言葉を頂き、生涯忘れることのできない時間となりました。

最後に、現在までの活動を強力に支えていただきましたJA広島厚生連をはじめ尾道総合病院、尾道市医師会、行政のスタッフの皆様方に厚く御礼申し上げます。



受賞式の様子

(中司貴子通信員)